

事業推進の心 仮設労働安全新生プラン

陽のあたる安全文化の創造

もうよせよ ヒューマンエラーの他人事 第2号 安全現場で身並なしあわせ めざせよ 容心して語らせる 心豊かな国創り

ACCESS新聞

Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety

Vol.122

編集・発行 篠田 伸夫

発行所 全国建設安全事業協同組合本部

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町

〒15-18 日本橋SKビル

T E L 03-3639-0841

F A X 03-3639-0840

ホームページhttp://www.kasetsuanszen.or.jp/

Eメールinfo@kasetsuanszen.or.jp

北海道支店 〒004-0015 札幌市厚別区下野幌テクノパーク2-14
東北支店 〒980-0802 仙台市青葉区二丁目13-22-407 (カルコスビル4F)
関東支店 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15-18 (日本橋SKビル5F)
北陸支店 〒950-0923 新潟市東区山116-5-28 (白木ビル2F)
中部支店 〒457-8535 名古屋南区浜田町1-10 2F
近畿支店 〒550-0006 大阪市西区江之子島1-6-8 (シャングリア阿波座1003号)
中国支店 〒730-0016 広島市中区鞆町5-55 (鞆町セナールビル6F)
四国支店 〒769-2101 香川県高松市北町1883-1 (大洞ビル4202)
九州支店 〒811-2101 福岡県糟屋郡宇美町大字宇野ノ13426-9

電話(011)899-3275 F A X (011)899-3276
電話(022)713-6051 F A X (022)713-6052
電話(03)3639-1571 F A X (03)3639-3980
電話(023)257-0066 F A X (023)257-0067
電話(052)614-0701 F A X (052)614-0705
電話(06)6443-5213 F A X (06)6443-5214
電話(082)511-2051 F A X (082)227-2720
電話(087)814-2346 F A X (087)814-2346
電話(092)951-0032 F A X (092)951-0033

良い建築作品には安心して作業できる足場が必須



聞き手 全国仮設安全事業協同組合 専務理事 篠田 伸夫

篠田 現場で働く職人の育成について必要を説いておられますが、それにはどのようなことが必要かあったのでしょうか。

内田 まず、高や左官などの職人さんたちは戦後の日本の発展には欠かせない人だったという思いが以前からありまして、建築というは職人さんを支えられている世界ですから、かねてから職人さんの育成が大事なことという考えがありました。

篠田 当組合理事長の小野展雄は職人さんの命が軽んじられていたと嘆いていますが、同時にマイスター制度を導入して職人さんの地位向上を図るべきだと言っています。

内田 日本の戦後教育では西洋建築技術を導入するというのが主流になりましたが、しかし日本の大工さんや左官さんという技術を持っていただけで、その後の小野さんから職人のための大学をつくらたいという

う相談がありました。

篠田 「ものつくり大学」で育成していただくという考えは、職人さんの育成に必要かあったのでしょうか。

内田 メンソーリーは、欧州ではやはり大事に考えられていて、日本では建築が欧州のアーキテクトに匹敵する地位を築いては行かれない、職人さんの育成を導いたから、棟梁が欧州のメソソリーの重要な役割を果たしてあげてほしい。明治以降という時代が続いて、棟梁たちには耐えがたいものがあったと思います。高も左官もその中の一つです。それにもかかわらず、職人さんたちにはたいへん申し訳ないことをしてきていると感じています。

篠田 そういふ点は現在も変わっていないのでしょうか。

内田 変わりはないですね。それでも棟梁の跡を継ぎたいという若い大工さんが意外に多くいます。目を輝かせて建築が各地にいます。そういう人に会って、とてつくりたいですね。

篠田 内田先生がご尽力されたのだから結局は手を離れてしま



建築家 内田 祥哉氏

日本建築学会の会長を務められるなど、日本の建築設計界に多大な功績を残された内田祥哉氏。これまで多くの建築家を育成されたことも知られていますが、職人の育成についても必要性を説かれています。これからの日本の建築設計界のあり方や、職人に対する思い入れなどを語っていただきました。

棟梁を目指す若手は多い



佐賀県立博物館(1970年築)

文化財修復工事向け安全足場の開発を

建築の世界は職人によって支えられている

内田 現場で働く職人の育成について必要を説いておられますが、それにはどのようなことが必要かあったのでしょうか。

内田 まず、高や左官などの職人さんたちは戦後の日本の発展には欠かせない人だったという思いが以前からありまして、建築というは職人さんを支えられている世界ですから、かねてから職人さんの育成が大事なことという考えがありました。

篠田 当組合理事長の小野展雄は職人さんの命が軽んじられていたと嘆いていますが、同時にマイスター制度を導入して職人さんの地位向上を図るべきだと言っています。

内田 日本の戦後教育では西洋建築技術を導入するというのが主流になりましたが、しかし日本の大工さんや左官さんという技術を持っていただけで、その後の小野さんから職人のための大学をつくらたいという



実験集合住宅NEX T21(1994年築)

内田 現場で働く職人の育成について必要を説いておられますが、それにはどのようなことが必要かあったのでしょうか。

内田 まず、高や左官などの職人さんたちは戦後の日本の発展には欠かせない人だったという思いが以前からありまして、建築というは職人さんを支えられている世界ですから、かねてから職人さんの育成が大事なことという考えがありました。

篠田 当組合理事長の小野展雄は職人さんの命が軽んじられていたと嘆いていますが、同時にマイスター制度を導入して職人さんの地位向上を図るべきだと言っています。

内田 日本の戦後教育では西洋建築技術を導入するというのが主流になりましたが、しかし日本の大工さんや左官さんという技術を持っていただけで、その後の小野さんから職人のための大学をつくらたいという

「ものつくり大学」ですが、内田先生が理想として描いておられたのは、どういう大学だったのですか。

内田 私が東大で教鞭を執っていたころ、大工さんの師弟という生徒が何人もいました。優秀な師弟を東大に行かせる、建築として一流の一流になれ、と。東大で学ばせたい、という思いが、この「ものつくり大学」の原点です。

篠田 私は大工の資格が問題だと思っています。大工や左官としての技術が身につけていない、あるいは本職に必要知識が乏しい、という人が多くいます。

内田 そういふ点については、私も大工や左官としての技術が身につけていない、あるいは本職に必要知識が乏しい、という人が多くいます。



明治神宮神楽殿(1994年築)

「ものつくり大学」についてお聞きしたいのですが、内田先生が理想として描いておられたのは、どういう大学だったのですか。

内田 私が東大で教鞭を執っていたころ、大工さんの師弟という生徒が何人もいました。優秀な師弟を東大に行かせる、建築として一流の一流になれ、と。東大で学ばせたい、という思いが、この「ものつくり大学」の原点です。

篠田 私は大工の資格が問題だと思っています。大工や左官としての技術が身につけていない、あるいは本職に必要知識が乏しい、という人が多くいます。

内田 そういふ点については、私も大工や左官としての技術が身につけていない、あるいは本職に必要知識が乏しい、という人が多くいます。

文化財修復工事向け安全足場の開発を

内田 現場で働く職人の育成について必要を説いておられますが、それにはどのようなことが必要かあったのでしょうか。

内田 まず、高や左官などの職人さんたちは戦後の日本の発展には欠かせない人だったという思いが以前からありまして、建築というは職人さんを支えられている世界ですから、かねてから職人さんの育成が大事なことという考えがありました。

篠田 当組合理事長の小野展雄は職人さんの命が軽んじられていたと嘆いていますが、同時にマイスター制度を導入して職人さんの地位向上を図るべきだと言っています。

内田 日本の戦後教育では西洋建築技術を導入するというのが主流になりましたが、しかし日本の大工さんや左官さんという技術を持っていただけで、その後の小野さんから職人のための大学をつくらたいという

現場のことについてお聞きしたいのですが、内田先生が理想として描いておられたのは、どういう大学だったのですか。

内田 私が東大で教鞭を執っていたころ、大工さんの師弟という生徒が何人もいました。優秀な師弟を東大に行かせる、建築として一流の一流になれ、と。東大で学ばせたい、という思いが、この「ものつくり大学」の原点です。

篠田 私は大工の資格が問題だと思っています。大工や左官としての技術が身につけていない、あるいは本職に必要知識が乏しい、という人が多くいます。

内田 そういふ点については、私も大工や左官としての技術が身につけていない、あるいは本職に必要知識が乏しい、という人が多くいます。

※サイト「スペシャル・フォーラム」(SFF)は、日本の建設現場における熟練の職人が不足しているという現状を憂えた建設関連大学の大学教授、専門工事業の事業者などが構成された任意団体。新たな人材を育成するための教育機関として「職人大学構想」を立案した。

プロファイル (つた) よしあき 建築家。1935年東京都生まれ。47年東京帝国大学工学部建築学科卒業。同年通信制現職務自入省。70年東京大学教授。93年日本建築学会会長。建築造学の大家で東京帝国大学名誉教授。内田三三氏の次男。建築のシステム化と建築構法を研究。その成果は「超層建築法」(LH)住宅などで、幅広く生かされ、戦後の日本の建築界に多大な影響を与えている。